

民生委員あれこれ

上原 昇（2組）

関東同窓会会報 89 号（2015 年 1 月発行）のコラム「上田ゆかりの偉人」に小河滋次郎（1863～1925）が、民生委員（当時は方面委員）制度の創設者として紹介されている。執筆しているのは市村光志さん（62 期：小河滋次郎博士顕彰会前事務局長）である。

小河は映画『うさぎ追いし 山極勝三郎物語』（2016 年 12 月公開、近藤明男監督、同窓 62 期の永井正夫さんが製作、遠藤憲一主演）の中で、上田での山極の竹馬の友として登場していた。演じていた俳優は豊原功補氏であった。

また、小河は山極とともに、上田郷友会の創設者の一人であることも聞いている。（同会は明治 18 年創設、同年に月報第 1 号が創刊し現在にいたる）

私も民生委員制度というものが、今でも地域の福祉を支えていることは認識していたが、郷土の大先輩が創ったものだということは会報で知った。

さて、私の住んでいるマンションは 225 世帯の規模だが、マンションの中に自治会があり、今年の 5 月から私が自治会長を務めている。

たまたま、これまで 10 年以上ずっと民生委員を務めてくれた A さんが民生委員の定年（75 歳）を迎えることとなり、自治会長の私が次の民生委員を推薦しなければならないこととなった。民生委員の定年制についても今回初めて知ったが、高齢化社会で 75 歳定年は早すぎるようにも思われる。

Aさんと私で、次の民生委員候補のリクルート活動を始めたが、これはと思い声をかけた人には「民生委員は大変だから」と断られてしまう。

10 人以上の人に断られがっかりしている時、ある住人（女性）から関心があると声がかかった。Aさんが「民生委員とは」について説明してから 1 週間後、その女性から「民生委員をやってもいいです」という返事があった。さっそく会って話を聞くと、彼女は看護師やケアマネジャーの資格をもった医療・福祉関係のプロであることも分かった。民生委員は民生委員法に基づき厚労大臣から委嘱される非常勤の地方公務員ではあるが無償のボランティアで、彼女の様な人が手を挙げてくれたことは非常に有難かった。同期の皆さんの中でも、民生委員経験者や現在民生委員の人がいるかと思う。

民生委員の推薦で四苦八苦している私の姿を見て、天国の小河さんも苦笑いされているのではないだろうか。

実は、小河滋次郎博士顕彰会の現在の事務局長は同期の柳沢英明君（9 組）である。

近々、柳沢君から当HPに顕彰会での苦勞話などの投稿を予定している。

(2022年7月26日記)

以上



上田城跡公園内の小河滋次郎の胸像（昭和15年建立）